

市政記者クラブ 様

健康福祉局健康部健康増進課

担当 中島・小原(電話 972-2531)

子ども・若者の「こころの支援」における IT の活用をテーマとした セミナーを実施します

本市では、いのちの支援（自殺対策）の取組みの一環として、大学関係者など日ごろから子ども・若者からの相談等に対応されている方を対象に、先進的な取組みの紹介や情報共有、意見交換等を行う「こころの絆創膏セミナー2024」を表題のテーマにより開催しますので、お知らせします。

記

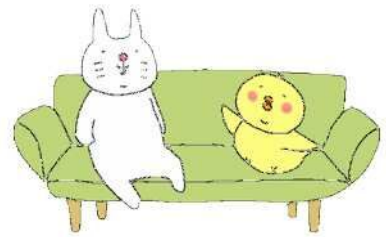
1 講演

(1) 演題

「対話ロボットを通じて人を知る」

(2) 講師

名古屋大学大学院工学研究科情報・通信工学専攻
准教授 小川 浩平 氏



名古屋市いのちの支援キャラクター
「うさじ」「びよ吉」©becco

【講師略歴】

○平成 25 年度～平成 29 年度 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター助教
人間国宝の落語家・桂米朝モデルにした「米朝アンドロイド」の開発に関わるなど、アンドロイド研究の第一人者として知られる大阪大学大学院 基礎工学研究科の石黒浩教授の研究室において、人とロボットとのコミュニケーションのあり方についての研究などに携わる。

○令和元年 10 月～ 現所属

人との自然な対話を通じて、様々なサービスを提供できる対話ロボットの開発研究などに取り組む。

2 セミナーについて

(1) 開催日 令和 6 年 12 月 10 日 (火)

(2) 会場 名古屋大学 ES 総合館 1 階 ES ホール

(3) 参加申込締切 令和 6 年 12 月 3 日 (火) 先着 40 名程度

3 その他

名古屋大学内での取材、撮影につきましては、事前申請が必要となりますので、下記問合せ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

名古屋大学総合保健体育科学センター・古橋研究室

電話番号：747-6703

メールアドレス：seminar2024@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp



名古屋市いのちの支援キャラクター
「うさじ」「びよ吉」 ©becco

名古屋市「こころの絆創膏セミナー 2024」

～デジタル世代の若者たちへのITを活用した こころの支援のあり方について～



若者を支援する側が、若者の心の世界とアバターなどのITとの関係について理解を深め、若者世代のための新しい支援のあり方について考えるきっかけの場を提供するセミナーです。



司会 古橋 忠晃（名古屋大学総合保健体育科学センター 准教授）

12/10 火

会場：名古屋大学
ES総合館 1 階
ESホール

主催 名古屋大学総合保健体育科学センター
共催 名古屋大学学生支援本部・名古屋市



プログラム

10:30-	受付
10:50-11:00	挨拶（学生支援本部 副本部長 鈴木健一 先生）
11:00-12:30	講演「 対話ロボットを通じて人を知る 」 名古屋大学大学院工学研究科 情報・通信工学専攻 准教授 小川浩平 先生 質疑応答
12:30-13:45	<昼休憩>
13:45-15:00	パネリスト発表 (1) 名古屋大学 学生支援本部 織田万美子 先生 テーマ： 若者はSNSを使いこなせるか ー学生相談における支援の現状ー (2) 愛知淑徳大学 学生相談室 並木崇浩 先生 テーマ： IT技術を用いた学生相談の実践 アクセシビリティの観点から
15:00-15:10	<休憩>
15:10-15:40	パネルディスカッション
15:40-15:50	<休憩>
15:50-16:50	情報意見交換会 * 対面参加者限定 * * パネリストのテーマごとにグループに分かれて情報意見交換を行っていただきます。 ①名古屋大学 織田先生 ②愛知淑徳大学 並木先生 ③名古屋大学 古橋先生
16:50-17:00	名古屋市からの情報提供

【実施方法】・対面（定員：先着40名程度）
・オンライン

【申込締切】2024年12月3日（火）

【参加申込み・お問い合わせ先】

・氏名・所属（職名）
・電話番号 ・メールアドレス
・情報意見交換会で参加したいテーマ番号*

（プログラム中①～③のうち第1・第2希望）

をご記入の上、メールにてお申し込みください（情報意見交換会へのご参加は、対面参加者に限定させていただきます。）。

Web参加ご希望の場合は、お申し込み時にその旨をご明記ください。参加登録完了後、セミナーのURLをメールにてお送りいたします。

〈Eメールアドレス〉

seminar2024@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

〈お問い合わせ先電話番号〉052-747-6703

【参加費】無料

*** 本セミナーは、名古屋市 いのちの支援（自殺対策）事業の一環として行われております ***